



六郷 ろくごう

六郷小学校

H29. 11.16

No. 24

子ども達一人ひとりに力がつく授業を目指して

13日(月)には秋田大学の阿部先生をお招きしての、2年松組の国語の授業と、3年竹組の算数の授業が行われました。阿部先生は秋田県の授業研究の第一人者で、いろいろな県から指導をお願いされている多忙な先生です。美郷町では3年前から指導をお願いして、授業の構想の段階から指導を受けています。

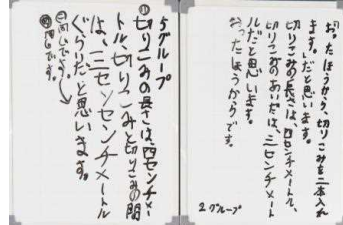
ご存じのように、秋田県は全国学力学習状況調査において、高い成績を残しています。その理由は、教員の指導力の高さにあると言われています。つまり、子ども達にとって力がつく授業を日々実践しているということです。このことは「秋田の探求型授業」という言葉にも表れています。

秋田の「探求型授業」

- ① めあてや課題を子どもと一緒に作る。 → ② 自分の力で考えてみる。 → ③ グループで意見を出し合って考える。 → ④ 学級全体で考えてまとめる。

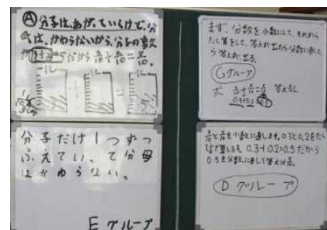
上記の流れに沿ってどの授業でも探求型の授業を行っていることが、秋田県の学力を上げているのだという考え方です。六郷小学校でも、この考え方に基づいて授業が実践されています。

2年松組(国語)の授業



左の写真から、まずは「自力思考」の場面です。子ども達は自分の力だけで答えを見つけようとします。今回の授業は、「説明文の工夫をみつけよう」という内容でした。2年生にするとかなり高度な学習です。まずは自分の力で文章を読みながら、ひみつを見つけようとがんばりました。次の写真が「グループ学習」の場面です。自力思考で考えた意見を出し合って、グループの考えをまとめます。そして、まとめた考えをホワイトボードに書きます。それが右から2番目の写真です。たとえ2年生であっても、ホワイトボードに書くことには慣れているので、どんどん書けます。そして右端の写真が、クラス全体で話し合っている場面です。ホワイトボードに書かれた内容をもとに、「どんなひみつがあるのか」をまとめていきました。

3年竹組(算数)の授業

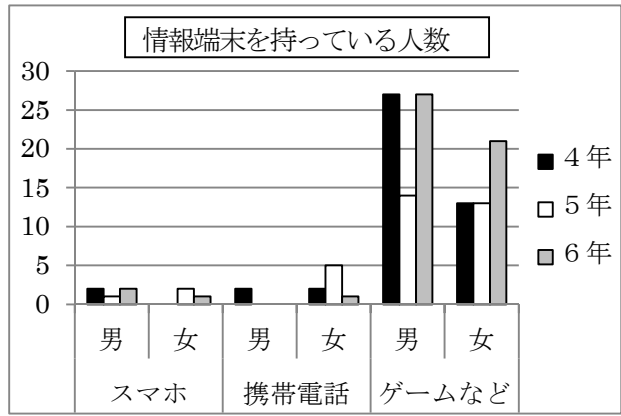


3年生の算数は、分数の足し算の学習です。「(十分の二) + (十分の三)」の答えを考えるのですが、お分かりのように、「なぜ分子だけしか足さないのか」を考えることが大事なポイントになります。

写真は左端が、ペアでの話し合いの様子です。もちろん「一人での自力思考」も行っているのですが、時々隣の人と相談してごらんというように、ペアで話し合わせることも行います。次の写真は、3人グループでの話し合いの様子です。一人ひとりの考えを発表しあって、グループとしての考えをまとめます。それを次の写真のように、ホワイトボードに書きます。そして、右端の写真のように、ホワイトボードの内容をもとに全体で話し合っ今日まとめをします。

このように六郷小学校でも、いろいろな教科で「探求型授業」を行って、子ども達の力をつけようがんばっています。実は、14日（火）も理科の研究会が行われました。連日の研究会でしたが、得られたものは大きかったと思います。理科の授業については、次回お伝えします。

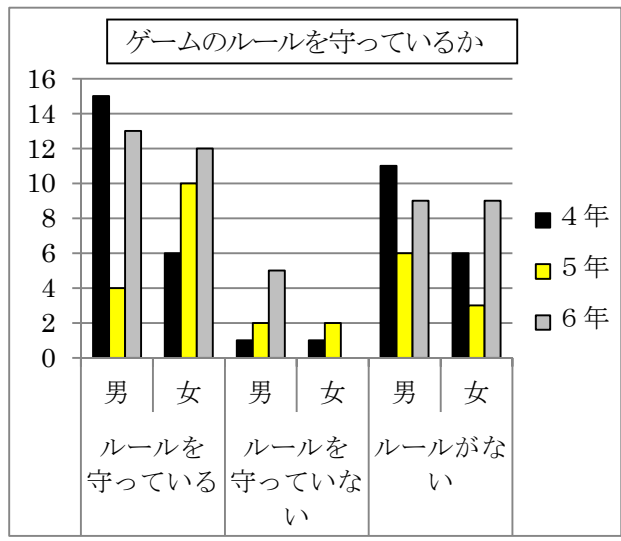
ゲームやインターネットについて考えてみませんか



情報端末の所持について

左の表から

- ・ゲームの所持率は非常に高い。
4年：80% 5年：57% 6年：94%
- ・スマホや携帯電話を所持している児童も数名いる。
スマホ：8人 携帯電話：10人

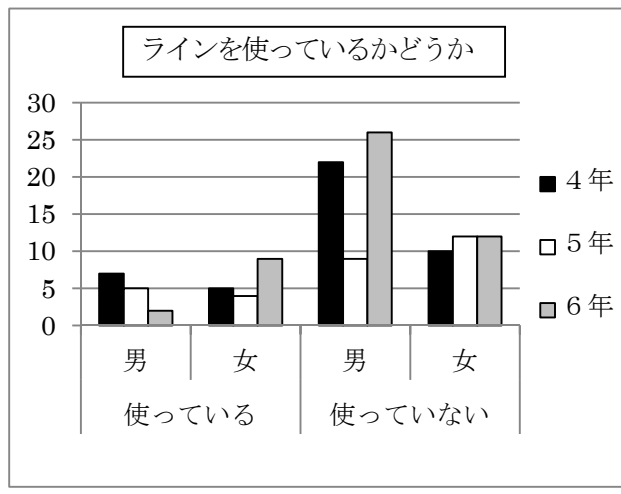


ゲームのルールについて

左の表から

- ・ルールを守っている児童は、全体の約40%
- ・ルールを守っていない児童は、全体の約7%
- ・「ルールがない」と答えた児童
4年：34% 5年：19% 6年：35%
保護者の方は90%が「ルールがある」と回答しています。この認識の違いが気になります。

実は、インターネット利用について「ルールがない」と答えた児童は、43%もいます。



ラインの使用について

左の表から

- ・ラインを使っている児童は
男子：14名 女子：18名

これ以外の調査も行っていますが、スマホのアプリを使ってゲームや動画を見ている可能性のある児童もいます。スマホはどこでも使えますので、その使用については十分家庭で話し合っただきたいと思います。ゲームやネット利用のルールについても、児童の認識が低いのが気になります。この機会にもう一度話し合っ確認をお願いします。何かあってからでは間に合いません。